

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1292600077		
法人名	株式会社ユニマツそよ風		
事業所名	やちよ台ケアセンターそよ風(なごみユニット)		
所在地	千葉県八千代市八千代台南3-2-32		
自己評価作成日	平成26年1月20日	評価結果市町村受理日	平成26年4月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社アミュレット
所在地	東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階
訪問調査日	平成26年2月13日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族、職員、地域の方々と支え愛ながら、暮らし続けられる。</li> <li>・職員、サービスの質の向上の為、研修参加。</li> <li>・地域の方との交流を深める為に、餅つき大会、フリーマーケット等の行事にも力を入れています。</li> <li>・季節を感じていただけるような、四季折々の行事や個々の要望に合った外出も多く取り入れています。</li> </ul>
--

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>「共に支え愛、どんな時も笑顔を決やさず愛情あふれる」をなごみユニットの理念として掲げ、職員間で共有し、日々の支援に反映できるように取り組んでいる。今年度は、事故や急変時における対応方法の確立や利用者の体調管理に力を入れて取り組んでいる。また、支援の充実に向けた取り組みでは、のぞみユニットと合同で、都内観光名所までのバスツアーを実施したほか、恒例行事となった餅つき大会、フリーマーケットの実施等、近隣の方の参加も受けながら実施する事が出来た。今後に向けては、利用者の意向や要望に確実に応えていくために、個別のかかわりも重視し、より充実した支援を目標としている。</p>
---

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者の</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんど掴んでいない</li> </ol>	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての家族と</li> <li>2. 家族の2/3くらいと</li> <li>3. 家族の1/3くらいと</li> <li>4. ほとんどできていない</li> </ol>
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 毎日ある</li> <li>2. 数日に1回程度ある</li> <li>3. たまにある</li> <li>4. ほとんどない</li> </ol>	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ毎日のように</li> <li>2. 数日に1回程度</li> <li>3. たまに</li> <li>4. ほとんどない</li> </ol>
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大いに増えている</li> <li>2. 少しずつ増えている</li> <li>3. あまり増えていない</li> <li>4. 全くいない</li> </ol>
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての職員が</li> <li>2. 職員の2/3くらいが</li> <li>3. 職員の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての家族等が</li> <li>2. 家族等の2/3くらいが</li> <li>3. 家族等の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどできていない</li> </ol>
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼後、皆で事業所理念を唱和している。また、ユニット理念を職員で話し合いその理念に基づいたケアに努めている。	法人のそよ風憲章(基本理念・介護サービス基本方針・品質方針)を毎朝唱和し、さらにユニットスローガン「共に支え愛、どんな時も笑顔絶やさず愛情あふれる」を掲げ、管理者と職員はそれらを共有して支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的にとはいかないが、毎年餅つき大会を開催し地域住民との交流を図っている。また、奉仕活動として散歩時ゴミ拾いを行っている。	併設する他のユニットや施設と合同で、近隣に告知し、餅つき大会やフリマーケットを開催し、多数の来場がある。またボランティア・中学生職場体験、介護職員初任者研修実習生等を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護初任者研修等の受け入れを行い、認知症の方や高齢者への理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加して下さった方々から、いただいたご意見を職員にも伝えサービス向上に努めている。	運営推進会議には、地域包括支援センター、民生委員、介護相談員、家族(出席は輪番制)の出席を受け、2カ月に一度開催している。サービスや取り組み状況について報告や意見を求め、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者には、定期的に待機者情報を報告している。又、2ヶ月に一度介護相談員にも来所していただき連携を図っている。	市町村担当者と日頃から連絡を取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝え、運営上疑問が生じた際には、確認を取りながら協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内外の研修に参加したり、ミーティングでの勉強会を行い正しい支援に努めている。また、外出しそうな時にはさりげなく声をかけ一緒に付いていく等自由な暮らしを支援している。	法人や事業所内で研修を開き、身体拘束廃止について正しく理解しており、玄関の施錠を含め身体拘束をしないケアに取り組んでいる。センサーマットを使用する際にも家族に同意を取り、適切な対応を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング内で勉強会を行い、職員に正しく理解してもらい虐待防止に努めている。		

やちよ台ケアセンターそよ風(なごみユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を、利用されている方がいらっしゃるが資料を回覧する程度で、理解と活用までには至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を取り細かく説明している。特に、起こりうる事故等のリスク、看取り、退去解約は十分に説明させていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議では、ご家族の意見、要望を伺いサービスに反映出来るよう取り組んでいる。また、介護相談員にも来ていただき利用者様の話を聞いていただいている。	家族からの意見、要望を聞く機会を来訪の際(運営推進会への出席、イベントの開催)、電話連絡時、ケアプラン説明時に設け、それらを運営に反映させている。また介護相談員にも来訪頂き、利用者からの意見や要望を収集している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やユニットミーティングで職員が意見を言える場を提供している。個別にも面談を行っている。	管理者は個別に面談や食事会を実施して運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、日常的に管理者やケアマネージャーから職員に声をかけ、ミーティング時にそれらの意見や提案を交換し、吟味して運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			

やちよ台ケアセンターそよ風(なごみユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ずご本人にお会いし、願いや思い生活状態等をうかがい、安心して利用頂けるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの経緯やこれからの要望を伺い、センターとして、家族の方と一緒にどのような対応が出来るか話し合いを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面談をもとに本人や家族の思い状況等把握し必要とする支援に繋げられるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ユニット理念にもあるように、共に支えあえる環境作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日々の様子を伝え情報共有に努め、協力関係を築くと共に家族参加の行事を多く取り入れることで、三者が共に支えあえる環境を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	季節ごとの手紙等で気ままでの交友関係が途切れないよう支援を行っている。	利用者がご自身で年賀状や暑中見舞いを作成し、友人や家族へ投函したり、近隣の理美容に外出するなど、これまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族等の協力を得て支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について情報を共有し、その日の状況に応じて職員が間に入り円滑になるよう支援を行っている。		

やちよ台ケアセンターそよ風(なごみユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今現在は、退去された方との連絡は取れておりません。今後は必要に応じて対応させていただきます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、本人に思いを伺うと共に、発言や表情からの思いを汲みとっている。困難な場合は家族も交え生活歴等も踏まえ検討している。	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握は、日常的な会話から引き出したり、家族の方にも意向等を確認している。その把握が困難な場合は、本人本位に検討し、実行している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前に本人、家族からの情報をいただいている。また、入居後も日々の会話や関わりの中で把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の状況を把握し記録に残し、申し送り等で現状を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	変化に応じて家族等も交え話し合いを行い、現場職員の意見も取り入れながら現状に合った介護計画を作成している。	アセスメントにおいて、利用者の現状や課題の抽出後、担当者会議を開催し、利用者、家族、職員の意見を収集しケアプランを作成している。ケアプラン作成後は3ヶ月毎にモニタリングを実施し、現状及び利用者の満足度を確認している。	今後に向けては、担当者会議に医師や看護師等の意見も入れ、他職種連携で進めていける事に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人のケース記録に日々の様子や状態を記入し、職員間で情報を共有しケアに活かしている。必要に応じて計画の見直しも行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族のニーズに応じて、個別外出等必要な支援を行っている。		

やちよ台ケアセンターそよ風(なごみユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に、民生委員や介護相談員が参加して下さることで、地域情報を取り入れながら楽しんで生活出来るよう支援させていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診を受けられる方とかかりつけの医療機関に受診される方といらっしゃる。どちらも生活状況を報告させていただき適切な医療を受けられるよう支援している。	利用者が適切な医療を受けられるように提携先医療機関による往診(2回/月)がある。また担当医とは24時間連絡が取れる体制を整えている。他のかかりつけ医を継続して受診している方には、家族の協力を得て適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	緊急時には、センター看護師に報告助言を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は出来る限りお見舞いに伺い関係者との情報共有に努め、退院前には退院後のケアについてDr.からの説明に家族と同席させていただき安心してもとの生活に戻れるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアの際は、往診Dr.、家族、事業所三者で今後の方針を話し合いグループホームでは何が出来るのかを説明し同意書をいただいている。	契約時に「重度化した場合の対応・看取り対応に関する指針」や「看取り看護・介護に同意書」を交わし、早い段階から利用者・家族と話し合いを行い、事業所でできること、医療の必要性が生じた場合の対応等を十分に説明しながら方針を共有し、重度化が見られる場合は、家族や主治医と連携を深め対応することとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	センターにて救急法の講習を行うなどしている。又、緊急時対応マニュアルを作成し周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を行い、消防署立ち会いのもと消火、通報、避難誘導の訓練を受けている。又、地域の方々に有事の際の協力を仰げるよう毎年餅つき大会を開催しセンターの見学も行っている。	年2回のうち1回は消防署立ち会いのもと通報・避難・消火訓練を実施している。災害に備え、飲料水や米を数日分確保している。また災害時に協力を得られる様に、イベント開催の際にはホーム内の見学も行っている。	災害時に備えた備蓄品をより充実させていくためにも、保管場所の確保やどのような備蓄品をそろえていくのか、今一度検討されることに期待したい。

やちよ台ケアセンターそよ風(なごみユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方に合った言葉遣い、声掛け対応を行っているようにしている。基本は、敬語での対応だが状況に応じ和やかな雰囲気も大事にした声掛けも行っている。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけを心がけると共に、居室への出入りにも配慮している。万一、不適切な言葉かけや接遇を見かけた管理者や職員はその都度注意することを励行している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別対応にて外出レクを行い、その方の行きたい所や食べたいもの等自己決定出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴、行事等センターの都合で決めていることも少なくないが、買い物や外出等個別対応も希望にそって支援できるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ひげそりやヘアーセットなど、今まで行ってきた事を職員は必要に応じて見守り、支援行っている。整容の乱れ、汚れ等もさりげなくお声掛けさせていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の出来る範囲で、調理や配膳等を手伝っていただいている。又、献立を一緒に考え楽しみを持って頂けるよう工夫している。	食事の準備では、利用者にも声を掛け、盛り付けや配膳、食器洗い等に関わることができるよう支援している。食事を楽しむ工夫としては、バイキング形式の食事やお弁当の出前、外食も実施している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態、トロミ対応等その方の状態に合わせた提供を行っている。毎食の食事量、水分量も記録に残し把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケア実施。利用者に応じたケアを行い、清潔保持に努めている。義歯使用の方は、就寝時、洗浄剤使用お預借りしている。		

やちよ台ケアセンターそよ風(なごみユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記録し、排泄パターンや状況を把握しトイレでの排泄が出来るよう支援している。	一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を排泄チェック表(グループホーム体温表)によりチェックし、定時の声かけや誘導により、トイレで排せつできるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腸の働きを良くするため、毎朝ヨーグルトや野菜ジュース、乳酸菌飲料を飲んでいただき便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日中拒否のある利用者でも長年の習慣で夜の入浴には拒否なく入られる為、希望に応じて個々に対応させていただいている。	一人ひとりの入浴状況を把握しながら、週3回入浴できるよう支援している。また、入浴を楽しむことができるように入浴剤を活用するなど工夫し、個々にそった支援をしている。なお、入浴中は職員が介助につき安全面にも配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の状況に合わせて、日中30分から1時間程度の休息を取り入れている。又、お気に入りの音楽を流し安眠して頂けるよう支援している方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診記録に、効能、用量等記載し職員供覧している。薬が変更になった際は日々の状態を細かく確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭き、掃除機がけ等自身の役割をそれぞれ持ち率先して行って下さっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとの行事や希望を取り入れながら外出支援を行っている。又、家族にも協力していただきバス旅行も行っている。	外出支援としては、個別にホーム周辺の散歩に出かけたり、嗜好品の買い物に利用者と一緒に出かけている。また、外出行事として、都内へのバスハイクやバラ園等に外出する等、戸外活動にも取り組んでいる。	



やちよ台ケアセンターそよ風(なごみユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持することにより安心感を得られる方もいらっしゃる為、ご家族と相談のうえ少額の現金を所持して頂き買い物等の際ご自身でお支払いいただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望がある時には、本人自らがご家族に電話出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内には、制作物、行事写真等掲示して温かみある空間を取り入れている。光、温度も自身で訴える事の出来ない方もいらっしゃる為、十分な配慮を行っている。	共用の空間は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮され、利用者の日々の様子や行事での様子をとらえた写真を掲示したり、行事や季節に合わせて装飾を工夫する等、生活感や季節感を採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれお好きな場所で過ごしていただけるようテーブル席の配置等考慮してしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は本人や家族の好みに合わせ、飾り配置を行っている。自宅で使い慣れた物を使用されることにより安心して生活が送れるよう支援している。	居室は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れた家具や好みのものを活かして、なかには自分で描いた絵や写真など飾り、居室内において居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内等に手すりをつけ、歩行の際にも、危険となる物は極力排除し安全で自立した生活が送れるよう支援している。		